

9月20日発売 村山早紀さん『桜風堂ものがたり』
(PHP 研究所)発売記念 応援フリーペーパー



対談:なぜ私は早紀せんせいに惹かれるのか？
ブックセンターほんだ(福岡県福岡市) 原田みゆ
聞き手:大盛堂書店(東京都渋谷区) 山本

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

山本(以下 Y) 原田さんが村山さんの作品にはまったきっかけを教えてください。

原田(以下 H) 元々、ヤングアダルト系が好きなので、図書館でも、本屋でも児童書コーナーに入り浸っていたんですよ。

Y 村山さんはもともと児童文学から経歴をスタートされていましたよね。

H で、『シェーラひめのぼうけん』シリーズ(童心社)がキラキラして目に飛び込んできたんです。なぜか、そのときは読んでなくて、後日勤めていた店で、当時は三笠書房さんの f-Clan 文庫というレーベルで発売されていた『竜宮ホテル』(現在は徳間文庫)の一卷目に会って、また釘付けになったので、今度こそ買って読んでみたら、可愛くて、健気な猫娘に魅了されました。

Y 運命的な出会いですね。

H 刷り込み、というか、DNA みたいな感じかも知れません(笑)

Y 昨年当店で開催した村山さんのイベントでも参加者の方でおられましたが、いま大学生くらいの子が図書館で村山さんの作品を読んで、ずっと今に至るまでファンという感じとある意味一緒ですね。

H ですかね、私、年齢はかなり早紀せんせいに近いんですけど(笑) せんせいの物語の根幹が変わらなくても、変幻自在に姿を変えてらっしゃるのもファン層の広さにつながっているのかも知れないなと。

Y そのファン層の広さは店頭でも実感されてますか？

H 以前の店では感じてました。 ラノベ読んでるような少年少女から、普通の主婦や、ちょっとマニアックな感じの男性まで。今の店でも感じたいので、色々模索します。ちなみにその男性のお客様は、ハードカバーの時の『ルリユール』(ポプラ社)を見つけて喜んでいただきました。

Y ちょっと村山さん個人の話も。原田さんは直接お会いになったことはありますか？

H 直接お会いしたことはありませんね。 でも、大変著名な作家さんののに、気さくにお声かけ下さるので、身近に感じます。

Y では SNS を通じてということですね。お二人の遣り取りのなかで、

原田さんのなかの村山さんの印象ってどのような感じでしょうか？

H 懐があたたかくて、とても深い方です。いつも少女のように、何にでも興味を抱いて、きらっきらの瞳で語りかけられるようなイメージです。それでいて、大人の配慮も忘れない思慮深さも持ち合わせていらっしゃる。 で、実は、本にお書きになっていないだけで、怖いお話も好きそうだと。

Y 怖い話お好きそうですね。あと意外だったのはノンフィクション系がお好きだという。

H あと、PC や、機械にめっちゃ詳しいです！

Y ですね。僕より全然詳しい(笑) 昨年そのイベントなかでも、村山さんとも親交がある聞き手の空犬太郎さん(編集者・ライター)とのお話で、次はガジェット系のことも触れたいと仰られていました。

H 作品の発表速度と、その間にもサインお書きになったり、SNS なさったり、いつ寝ていらっしゃるのだろう、と同僚と話題にしているくらい精力的に活動なさっている。

Y サービス精神旺盛ですね。

H そう、皆さんに楽しんで欲しい！ ってお話からも溢れてます。

Y その姿勢があるからこそ読者だけではなく、現場の書店員もすごく応援したくなりますよね。

H そして、また、その応援に応えて下さるのが、早紀せんせいです。

Y その一言に尽きますね。

H (腹の底から大きな声で)はい！

Y さて、9月に発売される『桜風堂ものがたり』ですが、我々はちょっとお先にゲラを読ませて頂きました。読んだ後一番初めに思った感想をお聞かせください。

H 「またすぐに、一整くんたちに会いたいっっ!!」 この一言でした。 渚砂や、苑絵や、アリスや船長、みんなみんな！

Y 今回はそれぞれの登場人物が今まで以上に立体的に感じました。もちろん「同業者」だから、というのもあると思いますが。

H 一緒に泣いたり笑ったり憤ったりしてしまいました。でも、きっと、一所懸命に何かをやってる人なら、業種が違っても共感出来ると思います。

Y そうですね。僕は今回は特に、真摯に「物を売る」という大切さをとても強く心に届きました。

H いつも、素敵な作品に出会えると「読んで読んで読んで〜っ」と、しつこく暑苦しく念じ(直接言ったりし)ますが、この本は大切な本なので、大切に読んでくださる方の手にじんわりと届くといいなあ。

Y いろいろ原田さんのお店での展開が眼に浮かぶようですね(笑)

H (きっぱりと) この本は売れますから！

Y 心強い!!

H 早紀せんせいから読者の、そして、お店のみなさまへの恋文ですもの。 お互い現場でも、がんばりましょう！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ぜひ、皆さまも全国の書店にてお買い求めください!!

小さな灯りのような明かりだとしても
例えばその 明かりが
日本じゅうで灯されたら？

今日のあなたの仕事はとても疲れるものだったり
心にひびが入るような辛いものだったかもしれない

でも あなたのその仕事は誰かに
繋がっていることを、忘れないでほしい。

灯された明かりは広がっていく。
ファンタジー じゃない。
理想論だと笑われたとしても

一冊の本が誰かの人生を変える
大きな力を、持っている。

本のかを信じる人、未来へ歩こうとする人、
頑張って生きていこうとする人の灯台のような物語。

『桜風堂ものがたり』
村山早紀

